

# Interview #04

\*2026年3月インタビュー

2026年3月所属：

人文学研究科人文学専攻文献思想学繫 中国語中国文学  
(東海国立大学機構メイク・ニュー・スタンダード次世代研究事業RESEARDENT)

2026年4月所属：商社系IT企業



## 人文学研究科 張 禧睿 さん

■ これまでやってきた研究の概要を教えてください。

私は中国文学研究室に所属し、中国古典を対象とした研究に取り組んできました。特に5世紀から9世紀にかけての資料を中心に、僧侶の身体に関わる言説に注目し、仏教の思想と中国社会の身体観とのせめぎあいを考察してきました。研究では紙の文献だけでなく、国内外のデータベースも活用し、必要な資料を効率的に収集して分析していました。ゼミでは先生や学生同士で議論を重ね、日本だけでなく中国や台湾の学会にも参加して発表してきました。最初は発表することに不安もありましたが、回数を重ねる中で少しずつ勇気がついてきたと感じていますし、学外の研究者とつながることができたのも大きな経験でした。

■ この春からはどのような仕事をする予定ですか？

4月からはIT系の企業に就職し、システムエンジニアとして働く予定です。文系出身でも研修を受けてエンジニアとして成長できる環境が整っている会社であることが、進路を決める上で安心につながりました。これまでの研究とは全く違う分野に進むことになるので、正直に言うと不安もあります。ただ、自分が社会と関わる形で働きたいという気持ちが強くなっていて、その中で企業という選択をしました。研究を続ける道も考えましたが、企業と博士人材の交流会やインターンシップを通じて企業で働くイメージが少しずつ具体的になり、自分でも挑戦してみたいと思うようになりました。

■ 就職活動の経緯や、キャリアに関する考え方は？

就職活動は2025年3月の解禁以降に本格的に始め、主に就職サイトを使って企業を探しました。IT業界にもさまざまな種類がある中で、ユーザー系企業は経営基盤が安定していることや、顧客と関わりながら仕事を進める点に魅力を感じました。研究の中で発表や議論を重ねてきた経験から、単に技術だけでなく人と関わりながら価値を生み出す仕事に関心を持つようになったんです。そうした中で、自分の強みであるコミュニケーション力や論理的に考える力を活かせるのではないかと思います、この分野を志望しました。

■ キャリア形成にあたって活用したこと、在学中に経験してよかったことを教えてください。

在学中で大きかったのは、企業と博士人材の交流会やインターンシップへの参加でした。博士1年の夏に参加した企業と博士人材の交流会では、企業から見た博士人材の現状を知ることができて、自分が企業で働けるのかという不安と向き合うきっかけになりました。その後、博士2年にインターンシップにも参加し、日本企業の文化や働き方を実際に体験しました。このインターンシップは、愛知県が主催しているもので名古屋大学キャリアサポートセンターや教務課から情報が来たものです。文系博士後期課程の学生が参加したことは今までなかったようですが、私にはよい機会となりました。例えば、スーツを着て工場や営業所に行き、エレベーターでは社員の方がボタンを押して待っていてくださるなど、細かい振る舞いにもルールや意図があることを現場で実感しました。また、社会人の方が常に明るく対応されている姿を見て、表情や態度も仕事の一部であり、組織のリーダーとしてとても大切なことなのだと感じました。こうした経験を通じて、日本で働くイメージが具体的になりました。

## ■ 就職活動で評価されたであろうと思うことはありますか？

内定後の面談で伺った話では、面接での受け答えが論理的でスムーズだった点を評価していただいたと聞きました。自分ではそこまで意識していなかったのですが、研究で発表や議論を繰り返してきたことが自然と表れていたのかなと思います。また、日本語で円滑にコミュニケーションが取れる点も評価につながったようです。さらに、海外の大学院生との共同研究で困難を乗り越えた経験を就職活動で話していたのですが、そうした挑戦する姿勢や、失敗してもまた取り組む姿勢も見ていただけたのではないかと思います。

## ■ 後輩たちにエールをお願いします。

まずは、自分がやりたいと思えることを大事にしてキャリアを考えてほしいと思います。好きだからこそ続けられるし、その気持ちが一番のエネルギーになると感じました。また、業界によって求められる人物像や採用の傾向は大きく違うので、それぞれの特徴を理解して選ぶことも大切だと思います。特に留学生の場合は、企業ごとに採用枠が限られていることもあり、思うようにいかないこともあると思いますが、落ち込まずに次に進むことが大事だと思います。文系の博士でも企業就職は十分に選択肢になりますし、まず一步を踏み出してみることが大切だと感じました。研究と就職活動の両立は大変ですが、自分のペースで続けていってほしいです。